

【畑地かんがい施設整備地区一覧】

事業名	地区名	関係市町村	かんがい面積	事業費(百万円)	工期
畑地帯総合整備事業	くのへ 九戸	九戸村	174ha	1,835	S52～H10
〃	いっかだい 一方井	岩手町	258ha	1,313	S53～H12
〃	のだ 野田	野田村	101ha	1,126	S60～H11
〃	ふじさき 藤崎	一関市、藤沢町	264ha	3,354	H4～(H23)
〃	もりおかせいぶ 盛岡西部	盛岡市、矢巾町	307ha	2,429	H7～H18
〃	ふじさき ² 藤崎2期	藤沢町	171ha	1,337	H8～(H26)
〃	ひがしおくなかやま 東奥中山	一戸町	410ha	2,570	H8～(H24)
〃	したざき 舌崎	二戸市	57ha	1,217	H12～H21
〃	みなみおくなかやま 南奥中山	一戸町	59ha	663	H16～(H23)
〃	おくなかやまちゅうおう 奥中山中央	一戸町	190ha	1,565	H17～(H28)
〃	おがみ まいさわ ゆだ 男神・米沢・湯田	二戸市	108ha	1,500	H21～(H26)
県営農地開発事業	おおの 大野	洋野町	321ha	6,871	S57～H15
〃	ふだい 普代	普代村	142ha	9,500	S59～H12
国営農地開発事業 ※1 () は全体	はちのへへいげん 八戸平原	軽米町 (八戸市)	511ha (1,864)	10,733 (50,389)	S51～H15 ※2
〃	ふじさわ 藤沢	藤沢町	379ha	39,300	S57～H10
計	畑地帯総合整備事業 11 地区 県営農地開発事業 2 地区 国営農地開発事業 2 地区 計 15 地区		3,452ha		

※2 八戸平原地区の畑かんの末端は整備検討中

畑地かんがい効果の一事例【暑熱対策】

1 本県の畑地と、かんがい効果

【本県の畑地の状況】

- 本県には約 15 万 ha の農地があり、そのうち約 6 万 ha が畑地
- 県北や県南地域の畑作地帯を中心に、約 2 千 ha において畑地かんがい施設が整備
- 畑地かんがい施設の整備率(2.8%)は、全国(20.7%)や東北(7.8%)に対し、大きく立ち遅れ

【畑地かんがい整備率】

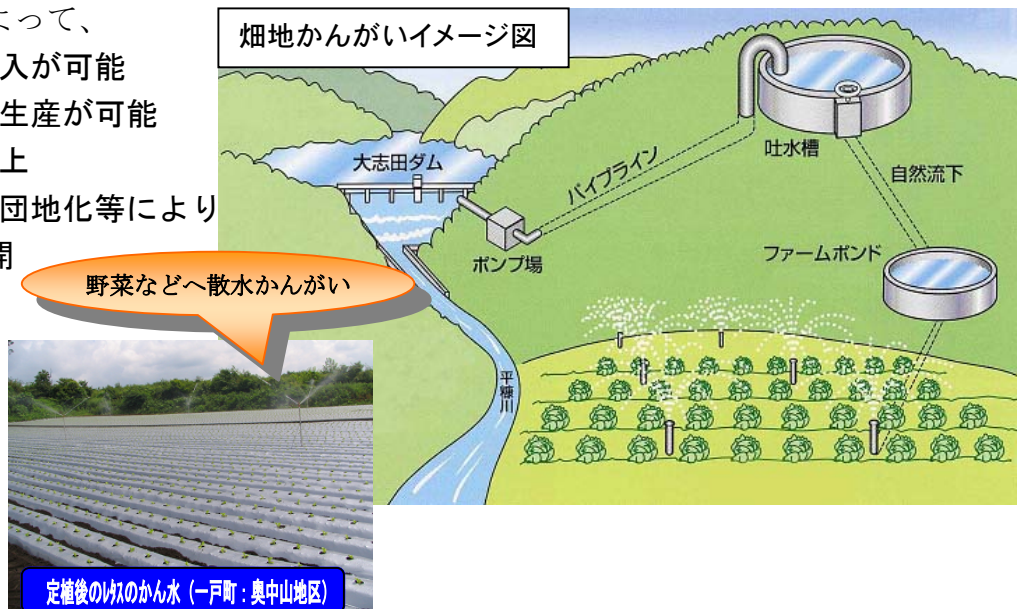
区分	本県	東北	全国
整備率	2.8%	7.8%	20.7%

(H20 農業基盤情報基礎調査)

【畑地かんがいの効果】

- 畑地かんがいによって、
 - ① 高収益作物の導入が可能
 - ② 作物の計画的な生産が可能
 - ③ 作物の品質が向上
 - ④ 生産の組織化、団地化等により高度な営農が展開

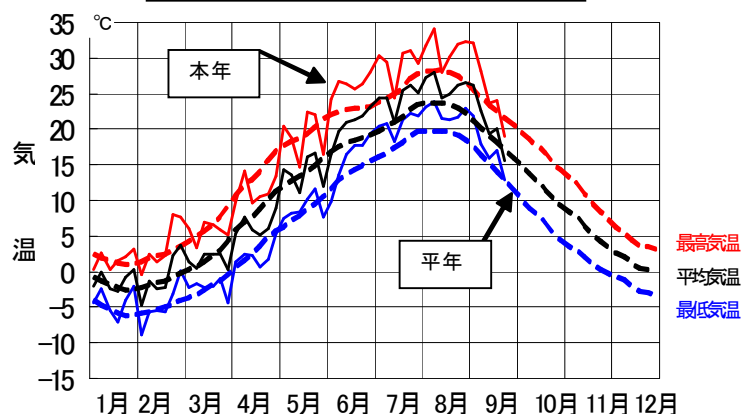
といった効果が期待



2 今夏の気象状況

- 梅雨明け後は晴れの日が多く、6月から8月の平均気温は、県内の全観測地点で平年を上回った。
- 盛岡と大船渡では、6月から8月の3か月平均気温が観測開始以来の最高値を更新
- この高温により、県内各地で米やりんごなどに生育障害が発生

盛岡 半月別気象経過図(H22)



3 主な効果事例

【事例1】

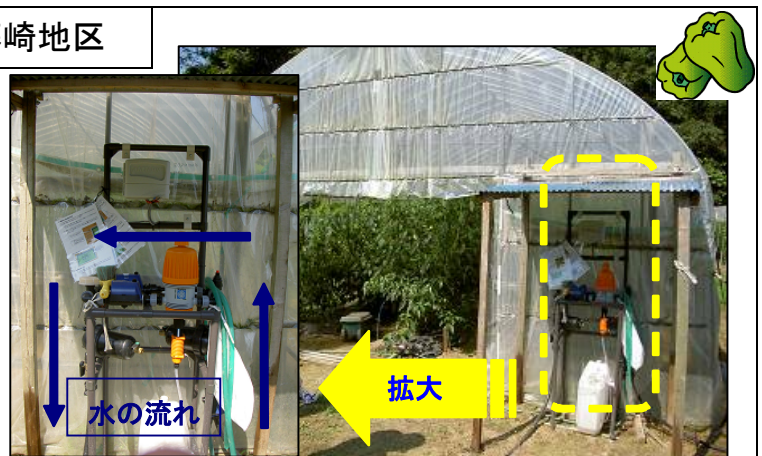
地区名	国営農地開発事業 藤沢地区
作物名	りんご
効果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・JAいわい東管内においては、りんごの出荷量が前年比“約6割”に減少 <p>⇒ 藤沢地区では、畝間かんがいにより前年をやや上回る収量を確保</p>



「散水ホースによる畝間かんがいの状況」

【事例2】

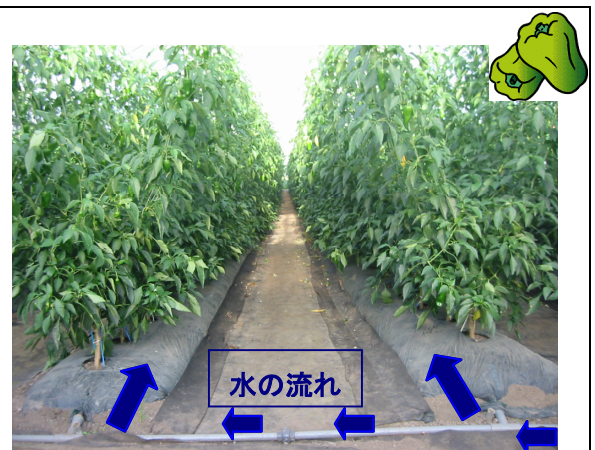
地区名	県営畑地帯総合土地改良事業 藤崎地区
作物名	ピーマン
効果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・JAいわい東管内においては、ピーマンの収量が前年比“86%”に減少 <p>⇒ 藤崎地区の自動点滴かん水装置設置圃場では、前年比“115%”を確保</p>



「自動点滴かん水装置によるかんがい状況」

【事例3】

地区名	県営畑地帯総合土地改良事業 九戸地区
作物名	ピーマン
効果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の二戸市（畑地かんがい利用なし）では、ピーマンの出荷数量が前年比112% <p>⇒ 九戸村では、畑地かんがい利用により前年比“136%”を確保</p>



「チューブによる点滴かんがいの状況」

4 県内の畑地かんがい施設の整備状況（県営畑地帯総合整備事業 等）

